

鳥取こども学園 学園だより

第 12 号

2002 年 12 月 1 日

○発行

鳥取市立川町 5 丁目 417 番地
鳥取こども学園後援会
電話 (0857) 22-4206

○振込口座

郵便振替 01490-9-9106

題字 尾崎悌之助



メリークリスマス

共にクリスマスの喜びを

鳥取こども学園 理事長 尾崎 悌子

クリスマスおめでとございます。
齊藤文明牧師は「鳥取こども学園五十年史」の中で「育児院の年中行事の第一はクリスマスです。いわばクリスマスから育児院では新年が始まるわけです」と書いておられます。鳥取育児院の頃から今日にいた

るまで、クリスマスは常に学園の行事のスタートになったといってもよいでしょう。皆様ご存知のように、クリスマスはイエス様が神の一人子としてこの世にお生まれになった日です。クリスマスツリーを飾り、降誕劇の準備をして子どもたちはクリスマスを待ちます。今年はいつともより早く冬が訪れました。日も短く、寒さの厳しい時期ですが、クリスマスという言葉や言葉を聞くと鳥取の寒い冬の中に火が点つたような気がするのには私だけでしょうか。

チャールズ・ディケンズの小説に、有名な「クリスマス・キャロル」という小説があります。クリスマスの夜、スクルージというお金だけしか信じない孤独な老人が、三人の幽霊に導かれて人間らしい心を取り戻すという奇跡を描いた心温まる短編です。ずい分前に読んだ小説なので細部は忘れてしまいましたが、登場人物たちが囲むクリスマスの食卓の情景は大変印象的でした。友人や知り合い、家族が集い、クリスマスを祝うごく普通の情景なのですが、そこに集う人々の描写からは幸福というものが具

体的な実感として伝わりました。とりわけ食卓に並ぶお祝いの料理やケーキ、プディングは決して豪華なものではありませんのに、まるで王侯貴族の晩餐のように感じられました。それはクリスマスの会食の場には集う人々が皆同じ喜びを共有しているからではないでしょうか。皆が喜びの中にあるということは、どんな御馳走や飾り付けにも増して食卓をはなやかにするような気がします。

今日の日本はディケンズが生きた頃のイギリスに比べて、物質的には格段に豊かになりました。クリスマスが近づく町にはおいしい料理、豪華なプレゼントがあふれています。しかし私たちはディケンズが描いたような喜びに満ちたクリスマスを迎えているのでしょうか。笑わない赤ちゃん、感情を示さないこども、虐待や暴力、家庭や社会をめぐる状況は近年ますます深刻なものとなり、こども学園もこのような問題に直面しています。

こども学園で迎えるクリスマスは、単にイエス様の誕生を祝うことに意味があるのではないと思います。神様が私達と共にいらつしやることを喜び、その喜びをともに祝う人がいることを喜び、皆が同じ場にあつて親しくクリスマス祝うことこそ、何にも増してクリスマスをはなやかなものとするのです。どうか、日本中のこどもたちがそれぞれの場にあつて、誰かとクリスマスの喜びをともにすることができまますように。学園を愛し支えて下さいます皆様の上に、神の御加護がありますよう祈ります。

● 児童虐待防止法施行二周年 改正を求める市民集会・パレード

「十二月十三日 東京行動」に向けての取り組み

児童養護施設、情緒障害児短期治療施設に次々送り込まれてくる被虐待児童の現場は「さながら野戦病院」のような状態をていして続けています。児童の処遇は、

今まで以上に個別の対応を強いられ、被虐待児が次々と引き起こす問題の解決に明け暮れ、職員の体力も精神力もギリギリのところまでなんとか保持されている現状です。虐待防止法は施行されても、それを受ける現場の改善は、何らなされて

おらず、本当の意味で、被虐待児への救済につながっておりません。今年度、鳥取県より被虐待児十人につき一人の臨時加配分の単県補助をいただいておりますが、それでも追いつかない。私たちは、

二〇〇三年の虐待防止法の見直しに向けて、児童虐待防止法・児童福祉法等の改正を求めて、様々な取り組みを進めています。

十二月十三日の東京日比谷で行なわれる虐待死した子ども達への哀悼を込めたいのちを讃える市民集会・パレードへの参加を準備しています。子ども家庭支援センター希望館に事務局を置く『子どもの虐待防止ネットワーク鳥取』が中心となり、鳥取県実行委員会を立ち上げ、参

加の呼びかけと資金カンパを行っています。

○子どもたちの権利を守ることに。

○虐待予防のために子育ての社会的支援の充実。

○虐待を受けた子どもへの保護と回復。家族機能の改善・再生を図ること。

○児童福祉施設最低基準等関係法令の改正と制度改善の要請 等々。

福祉現場の悲痛な叫びを子ども達の代弁者として訴え続けたいと思います。

十一月二十六日の児童虐待防止キャンペーンには、鳥取県も学園からも多くの職員が参加し、これからも呼びかけ続ける予定です。あとは、東京行動あるのみ。『ここで、見離されたら、僕たち、どこに行けばいいの』施設の子どもの切実な想いをしっかりと受けとめれる施設として今後

も歩んでゆきます。

引き続き地域の御理解、御協力をお願いいたします。

後も歩んでゆきます。



＝新日本海新聞社提供＝

第6回

FOUR WINDS全国大会(鳥取大会)開催

— 日本乳幼児精神保健研修・研究会 —

去る十一月二十三、二十四日の両日鳥

取県民文化会館で希望館の副館長、川口

孝一児童精神科医を実行委員長に第六回

FOUR WINDS全国大会が開催された。

FOUR WINDSは、一九九六年

七月フィンランドにて開催された第六回

世界乳幼児精神保健学会への参加を機会

に日本各地で乳幼児精神保健に取り組ん

でいる方々との連携を目指して結成され

た。現在、正会員数約三百名(保育士、

教師、乳幼児施設職員、保健婦、助産婦、

看護スタッフ、医師、心理士、ソーシャル

ワーカー、PT、OT等)で世話人会

を中心乳幼児と家族の心の健康を守り

育てていくための研修、研究を目的とする活動を行っている。

鳥取大会では、鳥取県も学園に事務局を置き、様々な関係機関の協力を得て

実行委員会を組織し、当日は約五十名のスタッフで運営に当たった。内容は、前

日症例検討会(約三十名参加)、公開講座(約四百名参加)、本研修(約三百名

参加)の三部構成で企画。症例検討会では

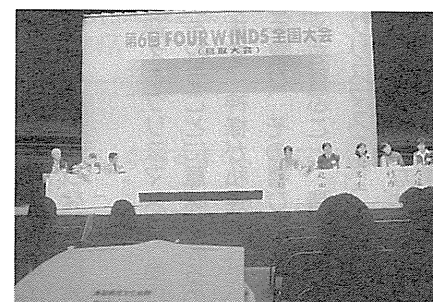
県内の施設より症例を出し、世話人も

交えて検討した。

公開講座は、無料の一般公開とし、講

師には「共感教育プログラム」の創始者として知られるメアリー・ゴードン氏をカナダより招き、幼少期からの赤ちゃんと

の触れ合いは他の人の気持ちを理解する力を養い、共感性を高めるというプログラムについて講演していただいた。本研修では、メアリー・ゴードン氏の講演の他、慶應義塾大学の渡辺久子氏、愛知教育大学の滝川一廣氏の講演、子どもの虐待防止ネットワーク鳥取の田村勲氏がコーディネーターを勤めるシンポジウム、全体自由討議などを行った。



今後、FOUR WINDS鳥取(代表 川口孝一)を中心に県内の乳幼児精神保健に取り組んでいる職種を越えた人々の連携が深まり、乳幼児を取り巻くお母さんをはじめとする家族をしっかりと支えながら、赤ちゃんのこころを守り育てて行く手助けができればと願う。

児童養護施設

鳥取子ども学園

鳥取子ども学園は、現在四十五名の子どもたちが、暮らしています。東雲寮の分園には、五名の高校生が職員の家と一緒に暮らしています。今回は、生徒会長になって頑張っている児童と東雲で自立に向けて励んでいる児童の作文を紹介します。

支えられてるんだ

中学生 T・M

私は、今年で十四歳をむかえました。生まれてから今まで悩んだり、涙を流したり、みんなと共に笑い合ったりしながら幸せに育ってきました。

学校で私が少しでも暗い顔を見せると「大丈夫？」と声をかけてくれる友達。勉強で分からないところがあると迷わず教えてくれる学校の先生。悩みをかかえながら帰るとそれをふきとばすような暖かい一声のおかえり。知らず知らずのうちに誰かの支えの手にのって私は生活しているんだと思うように成りました。それでも、『支えられる側ではなく支

える側になりたい』と強い願望でなれた

のが生徒会長という役職です。いろんな

意味で、生徒会長は大変です。だけど、

大変ではなく大きく変わることを考えて、

私は思い切って立候補しました。けれど

やっぱり支える側は難しく、何をどう支

えればいいのかわかりませんでした。だ

から、私は、支えようと思うのではなく

自分自身が笑顔をやさず、相手の心も

あかるくするような人になろうと思うよ

うになりました。簡単に言葉では、笑顔

を絶やさないようにしようと言ったこと

ができた私ですが、どうしてもできない場

合だっけあります。そんなときは、支え

てくれている人たちにおもいきり甘え

ようと思います。

自分はもう十四歳なんだ。これくら

い……と考えるときだっけあります。一

人でも……。と思っけいるときでも誰か

に支えられてるんだというのを忘れ

ずに毎日を過ごしたいと思っけいます。た

え、誰が誰にということがわからなくて

も、人間かならず支えられてるのだから

感謝の気持ちを込めて、『ありがとっ

とたっけ一言でも心から言えるような暖

かみのある人間になりたいと思っけいま

す。そうなるように日々の言葉などに

も気をつけていききたいです。

東雲寮にて

高校生 Y・A

私が東雲寮に入っけ、一年七ヶ月が経ちます。学園で過ごした三年間と分園の

東雲寮で過ごした一年七ヶ月は、何とな

く違っけいる気がします。東雲寮は、自

活訓練ホームといっけ、高校生の女子が

生活してっけいます。自活訓練ホームとい

ように、学園を出てからのために自らの

生活力をつけるためのホームです。私は、

学園にっけるときよりも自分でしなけれ

いけないコトも多くあっけ東雲寮に入っ

たばかりの頃は、大変でした。しかし、

東雲寮に住むみんなの支えがあっけから、

一つ一つ乗り越えることができました。

そんなみんなとも、ケンカもいっけばい

るし、時には、傷つっけるようなことも

言っけいます。だっけ、ここに居るみんなは姉

妹みたいな関係だからすぐ、仲直りでき

ます。それが、東雲寮の良さの一つであ

ると思っけいます。一人ひとりに良い所や悪

い所があっけ、それを見習っけたり、指摘

し合っけたり、誉めたりし合っけことで、そ

れぞれ一人ひとりが成長してっけたいら

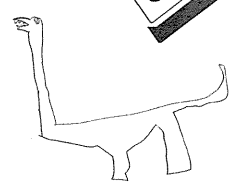
いと思っけいます。残り少ない学園生活を、

この東雲寮で少しでも多くのことを学び

ながら生活できたらいいなと思っけいます。



〔学園関係〕



5才 N・I

6月18日 プラム狩り招待(鳥取砂丘) どもの国)

7月23~25日 鳥取県児童養護施設合同 キャンプ(大山豪円山)。

8月1~2日 希望館キャンプ(兵庫 県・「とちのき村」キャンプ 場)

6~8日 鳥取学生赤十字奉仕団キヤ ンプ(小沢見海水浴場)

14日 OB焼肉交流会

25日 劇団飛行船・マスクミュージ カル「忍たま乱太郎」招待 (鳥取市民会館)

28~29日 里親交流キャンプ(日南 町)

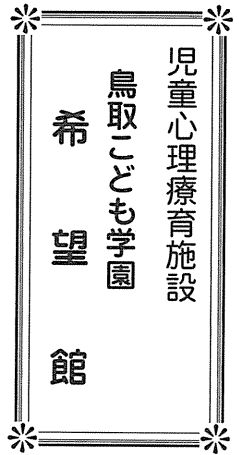
10月4日 希望館通所部門・ミニミニ運 動会

12日 いちご苗の植え付け招待(鳥 取ライオンズ)

25日 希望館通所部門・秋の遠足 (本陣山・久松山)

30日 四施設合同防災訓練

プロレス招待(産業体育館)



希望館には、現在二十九名が入所し、十五名が通所しています。今回は、入所している小学生の作文を紹介します。

宿命の

二〇〇〇メートル

小学五年生男児 Y・A

よいい、ドン。ぼくは今、七位、八位だ。さいしょにたくさん走ると、あとから、おそくなるぞと、お父さんにいわれた。でも、ぼくは、さいしょ、たくさん走らないと、さがついでしまう。だから、いっしょうけんめい、走った。

今、五位だ。六位までが入賞だからこの調子で走った。今、五〇〇メートルぐらいを走った。少し、ゼーハッ、ゼーハッという感じになった。きつかったけど走った。折り返しになった。今、四位、でも、メチャクチャきつい。どんどん抜かされていって。そして、六位、七位という感じで、十位以下になった。「えっ」と、思った。足が痛い。きつい。汗が出てく



る。メチャキリだった。十位以下にはなりたいなかった。

ゴールした。その時十五位だった。でも、自分なりに、がんばったからいいと思った。先生が、すごいと言ってくれたので、うれしかった。また、がんばろうと思う。来年は十位にはせりたいになる。

学園に来て

小学三年生女児 M・A

私は、去年の四月に希望館に来ました。入った時はとても、ドキドキしたけど、一か月ぐらいたつと、のびくホームの友だちとか、ちがうホームの人と仲良くなりました。分からない事も、先生や、ホー

ムの友だちが教えてくれて、みんなやさしい人たちでした。

夏休みには県内の施設の子どもが集まるキャンプに行きました。飯ごうで、ごはんをたいたり、包丁でお肉を切ったりしました。二日目に大山の十合目まで先生といっしょに登りました。十合目まで登った後、おべん当を食べました。おいしかったです。夜は、やき肉を食べたりきもだめしました。わたしは大声で叫びました。こわくてテントの中でなかなかねむれませんでした。

十月二十六日にホーム行事で岡山県くらしき市のチボリ公園に行きました。スカイウエーブに六回乗りました。

はじめは、こわくなかったけど、だんだん高くなつてきて落ちそうに思いました。ジェットコースターも曲がる時にこわかったけど、とても楽しかったです。

旅館では、いろんな人と温泉に入りました。気持ち良かったです。その後にご飯を食べて、とてもおいしかったです。また行きたいなと思いました。



11月2日 児童ふれあいのつどい(しらはま交流センター)

17日 鳥取シンフォニック・ウインズ定期演奏会招待(鳥取市民会館)

「みどり園関係」

6月2日 鳥取みどり園バザー

19、21日 参観日

20日 子育て支援センター「育児講座」講師 今田齒科医院衛生士 松本由起子

30日 私立保育園保護者会連合行事(ソフトバレーボール大会)

7月5日 七夕まつり

10日 プール開き

16、17日 個別懇談会

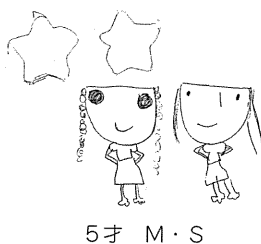
23日 卒園生のつどい

8月3日 納涼祭(保護者会主催)

27日 プール納め

9月15日 修立地区敬老会アトラクションに出演(年長児)

16日 仕事会(保護者会主催)



保 育 所 鳥 取 み ど り 園

園長 入江一枝

園の一年間の生活も半分以上が過ぎて、子ども集団の有り様も変化してきました。ひとりで遊んだり、気に入らないと別の遊びに移っていくことが多かった子どもたちですが、「○○ってことだよなあ」と相手を理解し、受け入れる姿が見られるようになりました。アイディアを出し合ったり相談すると遊びがより面白くなることを体験的に理解してきたようです。今日も庭に落ちたイチヨウの葉っぱを見て「きれいだなあ」「誰が落としたんだろっ!」と不思議に思ったことを伝え合っていました。落ち葉のじゅうたんの中心

私はみどり園に今日初めて行って、園児たちと短い時間にもかかわらず、一緒に遊んで仲良くなれたことがとてもうれしかったです。園庭に集合してももなく、二人のかわいい女の子が、「お姉ちゃん遊ぼ。」と手を引っぱってくれて、とっても感動しました。小さい子とあまりふれ合ったことがないので泣かしてしまったりするのではないかと不安でいっぱいだったのに、二人のむじゃきな笑顔にとてもすくわれました。

園児たちの朝からテンションの高さには驚くばかりでしたが、子どもと遊ぶのは基本的には好きな方なので、楽しい時間を過ごすことができました。また機会があったらみどり園に行きたいものです。



もぐり込もうとしたり手いっぱいを持った葉っぱを空に向けて散らしたり楽しい遊びが続いています。子どもたちは、関心と喜びを共有して、共に在ることの嬉しさを味わっているようです。

十月、十一月は多くのお兄さんやお姉さんたちとの出会いがあり、楽しい交流をもつことができました。(県立保育専門学院生、鳥取東高生、鳥取東中生)学生たちは、はじめて見たりふれたりする赤ちゃんに「かわいい!」やわらかくって、こわれそう!」など言いながら抱っこしたり、あやしたり……。また、園庭では、サッカー、縄とび、肩ぐるまなどいきいき交流が繰り広げられました。子どもたちにとって、お兄さんやお姉さんと過ごした時間はとても楽しく、すてきな交流の場となったようです。子どもたちが、いろんな人と出会い、いろんなことを経験しながら、より豊かに育つよう援助していきたいと思

います。鳥取東高生の感想を一部紹介いたします。

出 会 い の 森 の 親 子 教 室

子育て支援センター
指導者 栗本悦子

先日、わくわく

親子教室(出会いの森)へ出かけ、青空の下で思いっきり親子で身体を動かし、ミニ運動会を楽しみました。広い芝生の上で、



かけっこやカラーバールンでの遊びにいつもとは違った、生き生きとした表情を見せてくれ、うちとける子ども達の姿も見られました。この場所へ初めて来られた親子もあり、「今度は親子で(パパと一緒に)遊びに来ようね。」と、話しておられる姿もみられました。自然の中に出かけ、大好きなお母さんやおばあちゃん達といっばい遊べた満足感で、子ども達の笑顔も輝いてみえたひとときでした。お昼前には、すっかりうちとけたお母さん同士が、輪になって楽しそうにお弁当を広げ会話もはずみ、素敵な出会いの森の一日でした。これからもいろいろな活動に参加して頂きながら、楽しく子育てが出来よう支援していきたいと思

19日 子育て支援センター「育児講座」講師 鳥取みどり園栄養士 高橋あけ美

29日 運動会

10月10日 交通安全教室(保護者会主催)

15~28日(6日間) 保育実習(鳥取東高2年生全員360名)

17日 「六歳臼歯健康講座」講師 今田歯科医院長 今田哲也

20日 私立保育園保護者会連合行事(空港であそぼう、於鳥取空港)

23日 徒歩遠足(子どものみ)

3歳児・4歳児……稲荷神社5歳児……久松公園・久松山

11月2~3日 修立地区文化祭に描画出展(修立地区の3歳以上児)

4日 子育てセミナー(鳥取市主催)

17日 第28回鳥取県私立保育園振興大会(於羽合町)

21日 感謝祭もちつき

26日 子育て支援センター「育児講座」講師 柿田順子・浜崎博美



子ども家庭支援センター 希望館

子ども家庭支援センター「希望館」には、昼夜を問わず実に様々な悩みをもったお母さん等から電話がかかってくるきます。おむつがなかなかとれないといった子どもの発達的な悩みから、近所づきあいが下手で困っているといった人間関係の悩みまで、幅広い相談を受けます。そして受話器越しに話されていくうちに、お母さんの「核」にある問題にぶつかることがよくあります。子どもの頃に受けた心の傷や過去に未解決になったままの問題が、そのまま子育てに反映されているのです。子育ての悩みを語る中で自分自身を見つめ直し、そして満足げに電話を切られると、「こちらも「ああよかった」とほっとします。

電話相談を受ける中で感じるもう一つのことは、誰からも手助けがない状況で子育てをしているお母さんが増えていることです。先日あるテレビ番組で放送されたのですが、インターネットを利用して子育ての情報を得るお母さんが急増しているそうです。番組の中で、あるお母さんは「ホームページの掲示板やチャットを利用して悩みを打ち明け、みんなから返事をもらうことでああ、悩んでいるのは『私だけじゃないんだ』と安心感

が得られると話していました。子ども家庭支援センター「希望館」にも時々メールでの相談がありますが、一見淡淡とした文章からは、孤独な状態から救ってほしいという気持ちがひしひしと伝わってきます。

自分自身の問題を抱えながら一人で気を張って子育てをするお母さんの背景には、いろいろなものがあると思います。確かにその理由はなかなか改善されにくいかもしれませんが、しかし、だからこそお母さんの悩みを聴いて、状況に応じて情報を提供することによって「そんなに頑張らなくていいですよ。いつでもお母さんの味方です。安心して下さい」という気持ちを伝えること、これが電話相談を通じてできることだと思います。

お母さんが常に緊張し不安な顔ばかりしていると、子どもも「お母さん大丈夫かな」と不安になるそうです。ならば、お母さんが子どもと一緒にニコニコと生活できるように、電話相談をホッと息抜きができる方法として利用してもらえればいいなと思っています。



自立援助ホーム 鳥取フレンド

寮長 山中提二

私が自立援助ホームに関わるようになって十五年もたつてしまいましたが、その間子ども達には、何をしてもできなかったように思えてきます。今年で定年を迎え新しい気持ちで、これからもフレンドとは付き合っていくかと思う時、フレンドはどうあるべきか。さまざまなたたのみに耳を傾け、意見を交わして「日々は新世」の気持ちでこれから子ども達と生活をしていくかと思っています。

先に高知県の岡田ホームで行われた全国自立援助ホーム連絡協議会の中のホーム長の意見の中から「一、ホームの現状と悩みを紹介しておきます。(一部です)利用者の関わりについては、《一人一人を大切に》言うは易し行いは難し、ですが、中途半端な受入れは退行につながり、收拾がつかなくなる事があるので集団の中でどこまで個を大切に出来るか日々考えている。司法関係との関わりが多く、弁護士さんに自立援助ホームの関わりを求めているが兎相との連携に苦慮している。又、精神力だけなら五年が限度と言われた事が身にしみる毎日です。運営費もさる事ながら、入所者、退所者のケアにお金がかかるので、

出た子の家賃、携帯電話の代金、お金がなくなると心がせまくなる。休みが無い妻の不満がたまつて一悶着ある。自分に余裕がないと踏み込みたい時でもセーブが働いてしまう。実子が大きくなれば、一緒に住む限界がきてしまう。悩む。

精神障害者、老人、知的障害者のGHはたくさん出来ているのに子ども達GHが出来ないのは何がネックになっているのか、やはり国には期待出来なく社会に期待すべきなのか？又、古いホームについて、後継者の問題も考えさせられる。次につなげて行ける人材も難しくなっている。児童相談所との関係上他府県からの受入が難しくなり、入ってくる事が限られてくる不利益な事が多い。……。まだまだいろんな意見がありましたが、総じていえることは、ホームが少なく、就業が難しく、子どもの内面的コンセンサスがとれないまま生活をしているということです。

鳥取フレンドでは、鳥取県より県単補助金を受けられる事になって職員が一人はいりました。今後は、より良い子どもたちの住まいとしてでなく中身を充実させたいと思っています。いろんな事を考えさせられる一年でありましたが、いつまでも私たちに手紙をくれる退所した子どもがいます。アフターとして頑張るつもりです。成功談より失敗談のできるホーム長になりたいです。皆様もどうかフレンドを応援してください。

当学園事業へのご寄付
後援会へのご加入に
感謝申し上げます。

前回報告以降、現在まで、ご寄付いただいた方々、及び後援会に賛同（会費納入）していただいた方々は下記のとおりです。心より感謝し、ご報告申し上げます。

寄 付 者 (2002.6.1~11.30)

(敬称略)

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
相見 罔 臣 明穂整形外科(医療法人)	貫 名 安 子 菊 池 ト シ	竹 中 工 務 店 安全衛生協会鳥取支部	林 啓 二 郎 福 島 庸 二
浅 井 慶 紀 雨 河 一 就	清 宮 女 律 子 岸 律 子	谷 詰 万 寿 子 大 源 真 美	福 島 朋 子 福 田 実 子
市 谷 経 哉 市 谷 成 子	岸 良 尚 楠 城 屋 商 店	常 田 二 郎 常 田 薬 局 (有)	福 田 光 明 福 岡 知 夫
石 田 文 三 石 河 ひ ろ み	小 谷 寿 子 小 林 勉	土 江 富 夫 辻 成 史	星 三 光 (社) シ ャ バ ン ケ ネ ル ジ ク ラ ブ 理 事
池 田 晴 隆 岩 田 兼 商 店 (株)	幸 本 文 男 道 祖 尾 博 子	鳥 取 白 バ ラ 乳 販 鳥 取 ラ イ オ ン ス ク ラ ブ	前 川 昭 子 松 岡 京 子
岩 田 弘 美 井 上 裕 子	山 陰 予 防 医 学 研 究 所 山 陰 酸 素 工 業 (株)	鳥 取 ワ ー ル ド カ ッ プ (株) 豊 福 孝 明	松 原 菜 津 子 松 谷 ポ ン プ (株)
入 江 一 枝 入 江 亀 代 子	霜 田 稔 柴 田 妙	戸 田 倫 弘 鶴 巻 孝 永	松 本 忠 昭 松 橋 秀 之
伊 谷 伊 津 子 伊 谷 周 一	清 水 工 業 所 山 陰 支 店 (株) 正 林 督 章	中 井 英 治 昭 中 嶋 政 昭	松 村 文 雄 丸 谷 菊 枝
猪 股 佐 久 恵 石 戸 珠 代	地 蔵 盆 大 雲 院 子 供 夜 店 鈴 木 力	中 嶋 哲 一 美 中 野 輝 美	牧 田 文 子 牧 田 文 子
奥 羽 徳 行 奥 田 恭 正	杉 村 英 子 千 石 眞 知 子	中 村 愛 女 記 中 川 清 隆	真 嶋 憲 二 宮 脇 知 津 子
尾 崎 誠 太 郎 尾 崎 三 智 子	セ イ コ ー マ ー ト い ぬ い 綜 合 印 刷 (株)	中 川 俊 隆 中 尾 税 経 総 合 事 務 所 (株)	水 野 と み 子 三 木 康 二
大 沢 美 登 利 大 北 美 津 子	曾 我 修 道 下 石 洋 子	永 松 房 子 西 尾 美 知 子	盛 田 和 子 山 本 淑 子
荻 原 医 院 大 呂 隆 則	谷 口 金 治 谷 口 博 文	八 村 輝 夫 花 の れ ん (有)	山 本 博 樹 山 本 秀 樹
大 西 恵 久 金 子 り つ 子	田 中 工 業 (株) 田 中 耕 自	浜 田 素 子 萩 原 正 子	山 田 金 庫 店 山 下 弘 美
鎌 田 清 子 亀 井 堂 (有)	田 中 儀 衛 田 中 佳 代 子	平 井 豊 則 平 野 辰 郎	山 根 浩 子 幸 本 文 男
河 原 清 夫 河 田 瑛 子	田 中 喜 久 雄 田 中 工 (静子)	平 野 和 江 平 野 照 二	吉 田 秀 治 量 店 (有) 横 浜 小 児 科 内 科 医 院
上 岡 啓 吉 金 田 隆 臣	玉 木 敏 久 竹 本 伸 子	日 立 金 属 株 式 会 社 鳥 取 工 場 古 庄 信 子	
鍵 谷 純 三	竹 本 薫 子	堀 内 論	

以上138件、総額5,225,687円の後援会費・寄付金が寄せられました。心より感謝申し上げます。

物品寄付者 (2002.6.1~11.30)

(敬称略)

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
青木 木	木原 操	勢木 宇太郎	縫谷 昌生
岩田 堯夫	北浦 郁夫	田中 弘子	服部 宏美
井上 亜弓	倉吉更正保護婦人会	谷口 めぐみ	まつき 陶器店
井口 忠夫	蔵多 宣夫	瀧村 たつお	松田 悦子
猪口 吉野	権田 友子	高田 恵美	山本 和子
浦川 明人	小泉	田村 薫司	山根 由美
植田 洋子	坂口 久雄	伊達 季代子	弥生 館
海藤 ひろみ	下石 義忠	電池リビングサービ(株)	山田ヘアーサロン
柿田 小百合	下石 洋子	鳥取鮮魚仲買人組合	幸本文 男
柏木 建司	シダックスフードサービス鳥取店	日香寺(西尾瑠璃子)	渡邊 洋子

●鳥取県児童養護施設協議会「あしながおじさんの会」への参加のお礼とお願い●

施設から大学や専門学校へ進学する子どもへの学資援助をお願いしている「あしながおじさんの会」への皆様の御理解に感謝致します。今春、昼間働いて生活費を稼ぎながら、金沢の4年生夜間大学を卒業した男子がおります。これも皆様のおかげと大変うれしく思っています。又、鳥取こども学園から大阪の短期大学に進学した女子に学資援助を始めましたが、福祉の道を目指して頑張ってるようです。施設出身の子ども達の進学の夢を今後もかなえさせてやりたいと思います。現在の残金は、98万円弱です。今後も、さらなる御理解、御協力をお願いします。

●会員の種類

- A 月額1口 1,000円
- B 年額1口 10,000円
- C 一時カンパ(いくらでも結構です)

●お申込みの方法

- 名義 鳥取県児童養護施設協議会あしながおじさんの会
- 口座 郵便振替 01490-3-18497
- 鳥取銀行本店 普通 1430161
- 山陰合同銀行鳥取営業部 普通 3396627
- 鳥取信用金庫鳥取東支店 普通 100871

「鳥取こども学園後援会」加入と会費納入のお願い

鳥取こども学園の事業は、言うまでもなく「民間社会事業」です。「制度」も何もないところから出発した創立当初の困難を想い、民間社会事業の先駆性・献身性を受け継ぎたいと思います。公的な制度と資金だけでは到底足りません。

「鳥取こども学園後援会」加入と会費納入をお願いします。

1. 「鳥取こども学園後援会」へご入会下さい。
2. 地域、職域でできるだけ友人・知人に呼びかけて下さい。
3. 個人でも団体でも、会社や法人でも加入出来ます。
4. 年会費は、個人1口3,000円、団体・法人1口10,000円で、1口以上何口でも結構です。

会費・寄付金は下記へ

鳥取こども学園後援会事務局：〒680-0061 鳥取市立川町5-417 鳥取こども学園内

☎(0857)22-4206・21-9551 FAX23-0242

振込み口座名義：社会福祉法人鳥取こども学園 理事長 尾崎倭子

振込口座：郵便振替 01490-9-9106 山陰合同銀行鳥取営業部 普通 3422812
鳥取銀行本店 普通 7645611

お 願 い

この「学園だより」は、当法人にご理解、ご協力いただいている皆さまに、施設の様子やご寄付等を報告する意味で発刊し、お送りしています。

同封しています寄付金・会費の振込み用紙は、あくまでも皆さまの便宜を考慮のことです。

今後とも、当法人を温かく見守って下さいますよう、心よりお願い申し上げます。